

愛知県立港特別支援学校 令和元年度 学校評価

| | | | |
|----------|---|---|---|
| 前年度の重点目標 | 「あたたかい学校づくり」～感謝し合える関係づくり～ ○健康で安全・安心な学校づくりを進める。 ○一人一人の将来の生活を見据えた教育を推進する。 ○教職員間の協力体制の在り方を点検し、協働してチーム学校として業務にあたることができるよう工夫する。 | | |
| 項目(担当) | 重点目標 | 具体的方策 | 評価結果と課題 |
| 小学部 | 一人一人の子どもの目指す姿の実現に向けて授業の充実を図り、必要な力を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の「目指す姿」を家庭と学校とで共通理解する。 ・個々の具体的な指導目標を明確にし、きめ細かな指導計画を立案する。 ・手だての具体化、個別化などを行い、実践後の振り返りと評価を適切に行うとともに、指導の改善を図る。 ・関係諸機関との連携に努め、自立活動と関連づけた指導の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や支援相談を通して児童の実態を把握し、保護者と長期目標を共有することができた。 ・個別の指導計画に基づき、支援会議などを通して、児童の教育的ニーズを職員間で共通認識し、指導計画を立案できた。 ・学習のねらいや内容、手だてなどを工夫し授業の充実を図り実践できたが、高いニーズに応えられるよう継続していく。 ・障害に応じた専門的な指導については、訓練機関や医療機関等を有効に活用し、より授業に生かせるように努力していく。 |
| 中学部 | 生徒一人一人の心と体が十分に動く授業を進め、チャレンジ精神をもって、表現する力及び自立的に生活するために必要な力を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実態に基づいた単元を新たに設定するなど、主体性を重視した授業づくりや体験的学習を積極的に行う。 ・教師間の共通理解を図り、明確にされた自立を目指した生活課題に対して、繰り返し丁寧な指導を行う。 ・新しい自分の発見に繋がるような、チャレンジできる授業計画や目標を立てる。 ・保護者及び生徒に分りやすく、誤解のない丁寧な説明や言葉かけ、対応を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や授業のねらいに応じた教材教具の工夫や行事等とのつながりのある単元構成を考えたり、事前事後学習を充実させたりすることで、学びの充実に結びつけることができた。 ・社会見学、野外活動、修学旅行の事前・事後学習では、生徒の主体性を引き出して指導を行うことができた。当日の学習では、校内では得ることが難しい様々な体験をとおして、自立に向けた多くの経験を行うことができた。 ・保護者の気持ちに寄り添い、連絡帳や電話連絡、状況によっては直接話すなどの方法で様々な事案についてコミュニケーションをとって、御理解いただくことができた。 |
| 高等部 | 卒業後の生活及び進路を見据えた上で、社会的、職業的自立に向けて必要となる能力や態度、さらには生きる力の育成を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶及び場面に応じた態度、話し方などのコミュニケーション能力の向上を図る。 ・学級や学年の生徒との関わりを深めるとともに、校外外の人との交流を積極的に進める中で、さまざまな環境に適應できる力の育成を図る。 ・各種行事や生徒会活動等において、主体的・意欲的に取り組む姿勢がもてるよう支援する。 ・産業現場等における実習、勤労体験実習、校内実習などの体験的、職業的な学習の充実を図る。また、基礎学力の充実、体力の維持や向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業や日々の学校での生活場面で、元気に声を出したり笑顔で応えたりと、個々の実態に応じたコミュニケーションが取れていた。 ・特に行事では、学年やスタディを超え、生徒間で互いに意識し、思いやりをもって積極的に参加している場面が見られた。 ・スクールカウンセラーや外国語支援員を活用し、生徒の心のケア、保護者との意思疎通を充実することができた。 ・実習、校外学習をはじめ体験的学習を積極的に取り入れることによって、卒業後の生活に生きる力を高めることができた。 |
| 訪問教育 | 職員間で共通理解を図るとともに、校内及び他機関とも連携を密にし、教育支援の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に互いの授業を参観し合うなどしながら教師間の共通理解を深め、支援の充実を図る。 ・校内だけでなく外部の他機関とも連携を密に取りながら、進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態把握や職員同士の共通理解を図るために毎週会議で話し合いを行った。授業での児童生徒の体調の様子、保護者とのやり取りなどをできるだけ詳しく連絡を取り合った。 ・夏季休業中には授業参観、訓練の見学を行い、より良い支援について検討も行った。訓練の見学では、児童生徒の訓練の様子を具体的に見学でき、授業に反映させることもできた。進路については、保護者に寄り添いながら、集団学習などの登校時に進路担当の教師と懇談の機会をもつなどして、進めることができた。 |
| 総務部 | 児童生徒の学習活動が向上するように環境を整える。 職員が効率よく業務ができるように環境を整える。 P T A活動の効率的かつ円滑な運用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教室の備品・消耗品の整備をする。 ・職員の共用場所の管理、整理整頓をする。 ・P T A役員と十分にコミュニケーションをとり、役員とのニーズを把握するように努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教務部と協力し、新年度に必要な教室の備品・消耗品の整備をすることができた。今後計画的に古い物品を新しいものに更新していきたい。 ・職員の共用場所、特に日常的によく使う印刷室の整理整頓に努めた。誰が見てもわかりやすいように、物の置き場所に名札をつけ、探しやすく片付けやすい環境を整えた。 ・P T A役員とP T A活動以外の場面でも積極的にコミュニケーションをとるよう努めることで、信頼関係を築くことができた。特にP T A会長とは書面や電話も使って密に連絡を取り合い、小さなことでも確認しながら総会、役員会の準備にあたり、円滑に会を進行することができた。 |

| | | | |
|----------------|---|--|---|
| <p>教務部</p> | <p>新学習指導要領の全面実施を見据えて、授業における適切な目標設定や効果的な手立て、支援方法、教材教具の工夫や開発などの改善や個別の指導計画の充実に努めることで、児童生徒の主体性を高め、分かりやすく学びのある授業が実践できるようにする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の教育的ニーズを把握し、「目指す児童生徒像」の目標に沿った系統性のある授業を行う。 ・「揺さぶる、引き出す、行動する」授業（目指す授業）を日頃から意識できるように働き掛ける。 ・「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業実践、授業研修、学習指導案の作成等を推進する。 ・個別の指導計画の適切な目標設定、手立てや配慮事項の見直しを積極的に進め、学習の状況を適切に評価する。 ・授業力を高める四つの取組(授業振り返り週間の設定、授業チャレンジシートを活用、授業づくり相談会の実施、授業実践メモの60件達成)を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元計画や学習指導案の立案時や部研究、ケース会をとおして「目指す児童生徒像」を意識するよう働き掛けることで、授業改善に結びつけることができた。 ・授業振り返り週間を設定し、チェックリストを活用することで、日々の授業への意識付けを図ることができた。 ・教育課程講習会や文部科学省からの伝達事項を分かりやすくまとめ、部会や全校研修などを活用して意見交換や共通理解を図ることができた。 ・通知表に年間の目標を載せたり、教科会や授業担当者会、支援会議を有効活用したりすることで、適切な目標設定や評価を行うことにつながった。 ・初任者を対象とした自立活動、中学部教育課程Cの抽出授業における授業づくり相談会を実施した。 |
| <p>生徒指導部</p> | <p>防災体制の整備と周知を行う。 スクールバスの安全で円滑な運行を行う。 いじめの未然防止と早期発見、適切な事案対処を行う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの作成と職員への周知を図る。 ・避難訓練などの実施と検証をする。 ・防災備品の整備・充実を図る。 ・近隣地域との連携を図る。 ・バスコースの時刻、運行経路が適切であるか調査し、検討及び修正する。 ・児童生徒の状態を把握し安全に乗車できるようにする。 ・いじめや悩みについて調査する生活アンケートを実施し、児童生徒の困りに対し適切な対応ができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏季防災研修でマニュアルの周知を行い、帰宅困難時の防災体制について、作成した手順書をもとに模擬実施した。 ・避難訓練を実施し、避難経路の確認と検証ができた。 ・計画的に必要な備品を購入して配備した。 ・児童生徒の居住地や保護者のニーズを把握して、適切な運行コースを検討した。 ・保護者、学級担任等と情報を共有し、連携して児童生徒が安全に乗車できる環境を整えた。 ・生活アンケートを実施し、児童生徒の困りの状況を把握した。情報を共有し、各学部の状況に合わせて部ごとに対応した。 |
| <p>進路指導部</p> | <p>キャリア教育の推進を図る。 在宅就労の推進を図る。 進路指導に関わる情報提供の充実を図る。 進路先との連携を充実し、適切な進路開拓をする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・産業現場等における実習、外部講師による講話、ICTを活用した学習を行う。 ・校内実習でテレワークの要素を取入れた実習を行う。夏季休業中に、在宅ワーク体験実習を実施する。外部へ情報発信を行うとともに、外部の進路担当者や関係機関と情報交換や研究協議を行う。 ・進路だよりや進路の手引きを発行する。各部懇談で保護者に対し、実態に応じた講話を行う。職員や保護者に対して外部講師の講話を行うなど、関係者に対して適切な情報提供を行う。 ・進路先に訪問し卒業生の定着を図ると共に、情報を収集し、生徒の進路開拓につなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や保護者の意向に添った進路先を確定することができた。 ・障害の実態に応じて雇用形態を含め就職、福祉サービスと進路の幅を広げることができた。 ・在宅就労の取組では、先進的な事例として内外への情報提供を行った。他校の生徒にも門戸を広げ、在宅ワーク体験学習や校内実習を行った。また、遠隔授業も行った。 ・企業担当者や肢体不自由及び病弱の特別支援学校の進路指導主事を招いて研究協議を行うなど、重度の障害者の新しい働き方を考えるきっかけ作りを行うことができた。 ・在宅就労に関し、企業との取組の中で、新卒の採用に門戸を広げることができた。 |
| <p>研修部</p> | <p>主体的・対話的で深い学びとなる授業が行えるように、校内における各研修や研究を整える。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・校内における各研修の内容、資料、手順の整理、マニュアル化を図る。 ・初任者研修において、初任者が授業を考え実践できる力をつけられるように内容、環境を整え、調整する。 ・主体的・対話的で深い学びについて考え、普段の授業実践につながるような有意義な研究となるような環境を整える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・5年経験者研修、10年経験者研修のオリエンテーション資料は徐々に整理でき、研修者でスムーズに進めていった。 ・初任者研修では、昨年度から改善した点や新しい取組において、説明が不足している部分があった。分かりやすい資料の整備に努めたい。自立活動部、教務部等の協力を得て、より授業力を高められるような初任者研修を目指した。今後も他の分掌の協力を得ながら初任者研修の充実を図っていきたい。 ・おおむね各グループで創意工夫し、研究を進めることができた。今後も各部の研究の状況を研修部でも把握し、フォロー、協力していきたい。 |
| <p>図書・視聴覚部</p> | <p>児童生徒の学習活動を向上させ、豊かな心を育てる図書環境作りをする。 視聴覚機器の効果的な利用のための環境を整備する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・図書棚の有効活用、配架や見出しの整備・工夫をする。 ・図書館まつり等の企画や日常の啓発活動の中で、本に親しむ機会を提供し図書の利用を促す。 ・視聴覚機器の管理と整備および利用しやすい環境づくりを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・古い本を中心に積極的に廃棄本の選定を行った。その結果、書架に余裕が出て、本を取り出しやすくなった。 ・全校集会で図書館キャラクターが図書室の利用を呼び掛けたり、図書館まつりでは図書職員がいろいろな企画を出し合ったりして、児童生徒への図書室利用の啓発を進めることができた。児童生徒にも好評であった。 ・視聴覚機器が返却されないことが多々あった。使用する際の貸出簿への記入を徹底すること、また未返却のものがあればその都度アナウンスすることを今後も継続していきたい。 |
| <p>保健部</p> | <p>ヒヤリハット事例を共通理解し、健康・安全面に対する職員の</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・学年で具体的な対策(環境整備、支援方法等)を早急に検討する。 ・保健部で集約して、毎月部職員に報告 | <ul style="list-style-type: none"> ・ミスを責めるものではなく、事故防止のため多くの事例が出るよう毎月部会にて報告し、職員間の意識の差がでないように呼びかけたが、事例が減少している。 |

| | | | |
|-------|--|--|--|
| | 意識を高め、事故防止に努める。 個別の緊急時対応表を作成し、児童生徒の予想される緊急時の状態に備える。 感染症の発生予防・拡大防止に努める。 | し、事例と対策の共有をする。 ・保護者、学年職員と緊急時の対応について共通理解を図る。 ・登校時だけでなく、一日を通して健康観察をしっかり行う。 ・児童生徒職員共に基本的な感染症対策を徹底する。(一行為一手洗い、流行期のマスク着用、排泄物や吐物の適切な処理方法) | ・緊急時、その場にいる職員及び駆けつけた職員が迅速な対応ができるようシミュレーションを実施し、緊急時に備えることができた。 ・感染症罹患者が発生した場合、職員への周知、スクールバスや学年、教育課程ごとの児童生徒へメールで通知することができた。各教室などに手指用アルコールや泡石けんなどの設置数を増やす。保健だよりにて流行時期などの情報提供を行った。給食前に保健部作成の手洗いの歌を放送し手洗いを励行できた。 |
| 自立活動部 | 自立活動の授業を改善する。 | ・児童生徒の実態把握の方法や自立活動に関する基礎基本的な研修を行う。 ・自立活動に関する情報を整理し、分かりやすい研修、見やすく活用しやすい資料作りを行う。 ・自立活動部の職員が中心となって各学年の情報を収集し、各種相談活動や事例提供につなげる。 | ・自立活動に関する基礎基本的な内容について、映像や実技等を交えながら、具体的かつ体験的な研修を企画運営することができた。 ・自立活動部職員間で研修内容について反省を行いながら、資料の充実や講師経験を重ねることができた。 ・外部講師による巡回相談、作業療法士による摂食指導に関する相談など、外部専門家との連携により具体的かつ専門的な助言が得られた。 |
| 教育情報部 | 2学期に教員用ノートパソコンの約170台が更新され、タブレット端末も配備される。その更新作業を円滑に行い、タブレット端末の活用方法を検討する。 | ・愛知県総合教育センターや納入業者との連絡を密に行い、更新作業計画を立てる。 ・タブレット端末の使用方法を例示したり、職員の意向を確認したりして活用方法を検討する。 | ・職員数が多く、本校独自の校内ネットワークが構築されていたため、さまざまな問題を解決する必要があった。愛知県教育委員会や愛知県総合教育センターとの連絡を密に行い、3か月ほどかかってしまったが、更新作業を終えることができた。 ・今後も、職員が教員用ノートパソコンとタブレット端末を効果的に使い分け、より校務の効率化や教育の情報化を進められるようにしたい。 |
| 教育支援部 | 校内の教育支援体制を整え、円滑な教育活動が行えるようにする。 | ・障害の特性と関わり方について検討会を設ける。 ・支援の方法や技術について学習会を行う。 ・職員向け「教育支援部便り」を発行する。 | ・巡回相談や支援・指導検討会の内容を校務分掌会の中で報告し、記録を回覧することで、全員で相談内容について考えることができるような機会を設けることができた。 ・巡回相談や支援・指導検討会用に準備した資料を教育支援部の職員にも配布したり、研修会でいただいた資料を回覧したりして支援についての知識を深められるようにしたが、学習会という形までは発展できなかった。 ・支援部便りを年2回発行した。 |
| 総合評価 | 授業に関するアンケート評価では、5項目中「障害に応じた専門的な指導」以外は、全ての部で80%を大きく超える保護者から良好という評価をいただいた。今後は、教員の専門性を高めるために、研修の充実と児童生徒の実態や指導方法の共通理解を更に進めるなど、職員間の連携を今まで以上に図っていく必要がある。 | | |

イ 学校関係者評価

| 学校関係者評価を実施した主な評価項目 | 小学部、中学部、高等部、訪問教育及び各分掌部の今年度の取組と課題について |
|-----------------------------|---|
| 自己評価結果について | ・全保護者を対象に「授業に関するアンケート」を、PTA役員を対象に「学校に関するアンケート」を実施した。どちらも大旨良好との評価を得たが、「学校の防災・防犯体制について」の項目については、他の項目と比較するとやや低く、わからないと答えた方も多かった。防災・防犯に限らず、わからないという答えを少しでも減らす努力が必要である。 |
| 今後の改善方策について | ・研修等を更に充実させ、専門性の向上を図る。発達段階に応じた指導内容の体系化、学習内容が身に付く授業の工夫を一層進め、めざす児童生徒像について各部で実践を進める。防災・防犯については、研修やマニュアルに基づいた訓練もしっかりと行っているため、保護者が安心して我が子を学校に預けられるように、連絡帳や懇談の際にしっかりと伝え、アピールしていく必要がある。 |
| その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望） | ・温かい職員に囲まれて、気持ちよく授業を受けていることがよくわかった。 ・生徒一人一人のことを考えてプログラムを実施していることがよくわかった。 ・自分の子供が販売実習を体験した際、すごく充実感を味わっている様子であった。各部の取組でも社会見学など体験を重視していることは大変良いと感じた。 ・トイレの工事中、騒音が激しかったと聞いている。来年度の工事でも騒音や粉塵など配慮していただけるとありがたい。 ・遠足では、全て学年で目的地に水族館があるのは、見直してよいのではないかと。 ・災害時に医療的ケアのある児童生徒をろうさい病院が受け入れてくれるようになったことは、事前の受診等で手間がかかるものの感謝したい。 ・医療的ケアのある児童生徒のスクールバス乗車について検討して欲しい。 |
| 学校関係者評価委員会の構成及び評価時期 | ・構成…学校評議員6名、PTA役員3名 評価時期…2月下旬 |